

ICT を活用して学力を ~ メディアコーディネーター支援授業 ~

ICTとは、従来のIT（情報技術）とほぼ同様に用いられ、現在ではITよりもよく使われるようになってきました。千曲市では、ICTを効果的に活用することを通して、基礎学力が定着・発展することを願って、パソコン等を利用する学習環境の整備に力を入れています。先週から、市よりメディアコーディネーターが派遣され、各学級のコンピュータ室での授業をサポートしてくれています。

1～4年生は、インタラクティブスタディにより、算数等の基礎基本の定着を目指しました。

インタラクティブスタディ：基礎基本の確実な定着を目指した学校教育用ソフトウェアを使う教科学習支援システムです。



2年「九九クエスト」

2年生は、「九九クエスト」というコンテンツを使い、九九を使って森の魔物を倒しながらゴールを目指す学習をしていました。コンピュータを利用すると、自分のペースで自分に合った課題を解いていくことができます。学習の歩みが記録に残るため、それを分析することで、一人ひとりの学習理解状況を把握することもできます。何よりも、子どもたちが意欲的に学習に取り組む姿が印象的でした。

5・6年生は、スタディノートを使い、学習してきたことをまとめたり、友達に伝えたりしました。

5年生は、「6年生に向けて」の目標を自分の顔写真と合わせて作成し、友達に公開していました。



5年「6年生に向けて」

スタディノート：自分の意見や調べたことを、マルチメディアを活用してノートに書く感覚で表現し、作成したノートデータを公開することのできる学校教育用グループウェアです。

公開参観日が始まりました！（2/9～）

緊張しながら、1年間の学習を一生懸命発表する姿に、今年度の成長の跡を感じていただけたら幸いです。

登校日数もあかわらずか。現在の学年で学習したことが確実に定着するように、これから総まとめの学習をすすめていきます。ご家庭でも、漢字・計算等の習熟の様子をご確認いただき、必要に応じてご指導をお願いいたします。

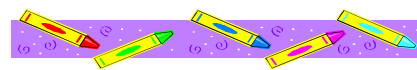


4年「学習発表会」

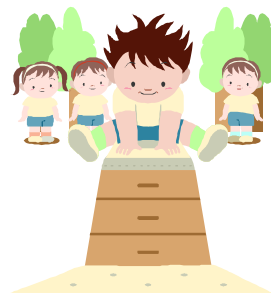
発達障害のある子どもは、周りの状況や相手の気持ちを察することが難しい、じっくりと考えずに衝動的に行動してしまうなどがあり、叱られることが多くなりがち。自信がなくなり、周囲に自分はだれからも認めてもらえないといういらだちから、反抗が強まっていく可能性があります。



トラブルへの対処法



子どもがトラブルを起こしたとき、「悪いことは悪い」と教えることは大切です。その一方で、どうしてそうしたことをしてしまったかを考え、適切な支援を継続していくことが必要です。



1 子どもの行動の特徴をつかむ。

一人ひとり子どもによって必要な支援は異なります。この子なりの好きなこと、こだわっていること、困っていることなど、普段の様子からこの子の理解をしていきます。そして、問題となる行動があったとき、**背景にあった出来事や気持ちを聞き取る**ようにします。

2 わかりやすく話す。

子どもに話をするときの基本は、「**簡潔に**」「**分かりやすく**」「**具体的に**」です。同時にいくつもの内容を伝えることで混乱をしてしまうことや、皮肉や遠回しの表現、たとえ話の理解が困難な場合があります。

子どもの気持ちを察した上で、どうすればよかったかを具体的に納得できるように伝える努力をします。

3 肯定的な表現で話す。

否定的な表現に敏感な子どももいます。注意をするときには「～してはいけません」といった否定的な表現ではなく、「～します(～しましょう)」といった**肯定的な表現**で、具体的に行動を伝えます。口で言うだけよりも、**ポイントを紙に書いたり絵に表したり**することによって、理解しやすくすることも有効です。

4 周りの理解を求める。

周りがちょっと気を遣えば、うまくできることもたくさんあります。悪いのはこの子と決めつけず、この子を**理解してかかわってくれる人間関係を構築**していくことが大切。経験を積み重ねるうちに、周囲に理解されながら、うまく集団に適應して過ごすことができやすくなってきます。

